

事業者温室効果ガス削減報告書概要（第二計画期間） 第 2 年度分

1 事業所の概要

事業者の名称		第一生命保険株式会社	
事業所の名称		仙台第一生命タワービルディング	
事業所の所在地		宮城県仙台市青葉区一番町四丁目6番1号	
主たる事業		不動産賃貸業・管理業	
事業者の該当要件	<input type="radio"/>	条例第2条第5号イに該当する特定事業者	
	<input type="radio"/>	条例第2条第5号ロに該当する特定事業者	
	<input type="radio"/>	条例第2条第5号ハに該当する特定事業者	
	<input type="radio"/>	条例第15条第1項に該当する一般事業者	
温室効果ガス排出抑制のための基本方針		「エネルギーの使用の合理化等に関する法律（省エネ法）」に基づき当施設において定める「管理標準」に従い、当施設におけるエネルギー使用機器の使用状況を把握し、かつこれらに関するエネルギーの浪費の未然防止を啓発するとともに、適切な執務環境の維持に努める。	

2 温室効果ガスの排出状況等

温室効果ガスの 排出状況 及び削減目標 ・ 非化石エネルギー の 使用割合目標	基準年度	2022 年度	基準排出量	999 t-CO <sub>2</sub>	基準原単位	0.01799
	目標年度	2025 年度	目標排出量	969 t-CO <sub>2</sub>	目標原単位	0.01745
			削減率	3.00 %	削減率	3.00 %
		非化石エネルギーの 使用目標割合	非化石電気	100.00 %	その他非化石 エネルギー等	100.00 %
温室効果ガスの 排出状況	第 1 年度	2023 年度	排出量	641 t-CO <sub>2</sub>	排出原単位	0.01154
			削減率	35.83 %	削減率	35.85 %
		非化石エネルギーの 使用割合	非化石電気	100.00 %	その他非化石 エネルギー等	0.00 %
	排出量等の 増減理由	2022年度の期中よりCO <sub>2</sub> フリープランの電気メニューに変更したこと、CO <sub>2</sub> 排出量が大きく減少した。 2023年度は仙台地区の平均気温上昇により夏季はターボ冷凍機の稼働増加、冬季は冷温水発生機の稼働が減少したことにより、前年より電気使用量は増加するも、ガス使用量が14%減少となったことが、エネルギー消費量原単位の削減に寄与している。				
	第 2 年度	2024 年度	排出量	617 t-CO <sub>2</sub>	排出原単位	0.01111
			削減率	38.23 %	削減率	38.24 %
		非化石エネルギーの 使用割合	非化石電気	100.00 %	その他非化石 エネルギー等	0.00 %
	排出量等の 増減理由	2024年度において、仙台地区では平均気温の上昇が見られ、電力需要が増加しました。また、テナントの稼働率が向上したこともエネルギー使用量の増加に寄与する要因となり、電気使用量は前年比で0.5%の増加となりました。 一方で、ガス使用量については、設備運用などにより、前年比で3.7%の削減となったことが、エネルギー消費量原単位の改善、CO <sub>2</sub> 排出量の削減に寄与する結果となりました。				

	第3年度	2025年度	排出量	t-CO <sub>2</sub>	排出原単位	
			削減率	%	削減率	%
		非化石エネルギーの使用割合	非化石電気	%	その他非化石エネルギー等	%
	排出量等の増減理由					

## 3 温室効果ガスの排出抑制に関する取組

基本対策の実施状況	基準年度	95 %	目標年度	95 %	
	第1年度	89 %	実施状況の説明等	防災センター要員に対して省エネルギー教育を継続して実施。	
	第2年度	95 %	実施状況の説明等	防災センター要員に対して省エネルギー教育を継続して実施。	
	第3年度	%	実施状況の説明等		

選択対策の実施状況	項目		実施状況
	エネルギー使用量の見える化（前年度比較）		実施済
	エネルギー使用量の見える化（分計による課題発見）		実施済
	外気冷房		実施済
	熱源設備 冷却水温度の適正管理		実施済
	熱源設備 冷却水の水質管理		実施済
	冷温水ポンプの回転数制御、自動流量制御		実施済
	ポンプ、給水系統の保全管理		実施済
	ファン、ブロワ、給気系統の保全管理		実施済
	変圧器の負荷率管理		実施済
	デマンド管理		実施済
その他の対策の実施状況	項目	具体的な取組内容	実施状況